

平成23年度 唐津市立湊中学校 学校評価計画

1 学校教育目標	
㊦	自ら学び ㊧ 仲間を愛し ㊨ 共に高め合う 湊中学校

2 学校経営ビジョン	
<p>○生徒たちが楽しく生き生きと、仲良く伸び伸びと、安全にきびきびと学び、自他共に高める学校 ～学ぶ喜び、できる喜び、共に成長する喜びを味わわせることによって～</p> <p>○教職員が教師力、指導力を向上させ、生徒を鍛える学校 ～職員相互の信頼関係と切磋琢磨によって～</p> <p>○家庭、地域と連携・協力し、信頼と期待に応える学校 ～積極的な学校情報発信と家庭や地域の教育力を生かすことによって～</p> <p>○将来に向かって一步一步前進する学校 ～学校の現状と課題をしっかりと認識した魅力ある学校づくりによって～</p>	

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
<p>本年度は、「鍛えることにより培われる将来を生き抜く力(生きる力)の向上」を重点目標として、授業、学校行事、部活動、清掃活動、家庭学習等を中心として、次のような目標を掲げ、生徒や学級・学校集団をレベルアップさせていく。</p> <p>①授業規律、学習規律を徹底し、指導方法の工夫・改善により、基礎・基本の確実な定着と言語活動の充実を図り、自ら学び、自ら考える力を身につけさせる。</p> <p>②家庭や地域の教育力を生かしつつ、学校行事を充実させ、様々な体験活動や集団活動を通して、社会人として必要な知識・資質・態度を身につけさせる。</p> <p>③元気な挨拶や声かけ、清掃活動等により、生徒との信頼関係を強し、命の教育、心の教育の充実を図り、人としての望ましい生き方を身につけさせる。</p> <p>④教科体育や部活動の充実、基本的な生活習慣の励行等によって、将来を生き抜く強い身体と精神力を身につけさせる。</p>	<p>本校は、教職員の連携が強く、学校運営及び教育活動は円滑に実施され、一定の成果に繋がった。しかしながら、本校の最重要課題を「学力向上」「心の教育」として、1人1役の校務分掌を担当し、それぞれの創意工夫のもと、様々な取組を展開してきたが、まだ十分な成果を収めるまでには至っていない。</p> <p>学力向上については、教職員が授業力・指導力の向上を目指し、分かる授業において基礎的・基本的な事項を確実に習得させると共に、家庭学習習慣を家庭と連携して身につけていくことで充実を図っていかねばならない。</p> <p>心の教育、命の教育については、常に、命の大切さを考えさせ、より良い学校生活の中で、思いやりの心や優しさを育ませつつ、学び合いを積極的に取り入れた教育活動により共に高め合う集団づくりを推進していく必要がある。</p> <p>家庭、地域との連携については、学校情報を積極的に発信したり、学校行事等を工夫・改善したりすることで、家庭・地域の教育力を最大限に生かし、特色ある、魅力ある学校づくりに邁進していく。</p>

5 総括表

① 授業規律、学習規律を徹底し、指導方法の工夫・改善により、基礎・基本の確実な定着と言語活動の充実を図り、自ら学び、自ら考える力を身につけさせる。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	主体的に学習に取り組む姿勢の育成と基礎学力の向上	<p>①授業中の学習態度に関して90%以上の生徒が目標達成する。</p> <p>②宿題等の家庭学習に関して90%以上の生徒が達成する。</p> <p>③個に応じた指導方法を工夫することでCRT学力検査学年平均を全国平均比で3P以上上回る。</p>	<p>①生徒間の話し合い、発表の機会を設ける等の工夫で学級全員が参加する学習を進める。</p> <p>②家庭学習の定着を図るために、計画的に学習課題を与える。</p> <p>③教師の役割を明確にし、指導方法を工夫する。個人差に応じた指導を充実させる。</p>
	○読書活動	読書に親しむ習慣の育成	<p>①朝読書の時間に自分で選んだ本を読むことができる生徒を80%以上にする。</p> <p>②図書室利用を勧め、生徒に主体的に本を読む習慣を身につける。</p> <p>③図書貸出冊数や図書館利用者数を前年度比で増加させる。</p>	<p>①図書だよりを発行したり、生徒や教師の推薦する本を知らせ呼びかけたりして、生徒や保護者への啓発を行う。</p> <p>②図書事務員との連携を深め、図書館の環境整備を進め、図書貸出冊数や図書館利用者数を増やす。</p>
特定課題	○小中連携	小中連携への取組の充実	<p>①小中連携の取組計画に沿って、各学校が共通実践を行い、課題解決を図り、成果を上げる。</p> <p>②相互交流の場を年間2回以上設定し、共通課題・実践について意見交換を行う。</p> <p>③授業公開を定期に実施し、児童・生徒理解を深めたり、各校の指導方法を学んだりする。</p>	<p>①湊小学校と連携を深め、年に2回以上授業公開を行い、話し合いの場を設けて、共通課題・実践について意見交換する。</p> <p>②教育課題に対して、課題解決のための具体的な方策を設定し、共通実践を行い、課題解決に努める。</p>
	○英・数の学習環境改善充実	個に応じた指導方法の工夫・改善	<p>①TT授業等に取り組み、個に応じたきめ細かな指導を行い、コミュニケーション能力を高めると共に基礎的・基本的な事項の確実な習得を図る。</p> <p>②「授業に集中して臨む。」「学習課題を忘れずにする。」の徹底を図り、達成率90%以上とする。</p>	<p>①授業の中にグループ学習を常に意識して取り入れ、学び合い学習を推進する。</p> <p>②単元終了後に補充指導を行う。</p> <p>③ノートチェック、宿題チェック等により、授業や学習課題を大切にすることを育て、基礎学力の確かな定着へと繋げていく。</p>

② 家庭や地域の教育力を生かしつつ、学校行事を充実させ、様々な体験活動や集団活動を通して、社会人として必要な知識・資質・態度を身につけさせる。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○学校経営方針	重点目標及び重点項目の周知と実践化	①重点目標の周知度を、教職員100%、生徒及び保護者80%以上とする。 ②重点目標を意識した学級経営、教科経営を積極的に進める。	①職員会議、研修会、学校行事、全校朝会、PTA行事、PTA総会、PTA役員会、授業参観、学校だより、ホームページ等を活用して重点目標及び重点項目の周知を図る。 ②職員会議等で重点目標を意識した活動についての達成状況を情報交換し、次の教育活動に生かしていく。
	○開かれた学校づくり	積極的な情報発信と授業公開	①学校配付資料を全保護者に配付し、90%以上保護者に読んでもらう。 ②全保護者に年間最低3回は学校行事、授業参観等に来校してもらう。 ③学校評議員会を年間2回行う。また、学校行事や研究授業等への参観も促す。会での意見を学校運営に生かす。	①学校配付資料を確実に保護者に届けるため、出欠表を付ける等の工夫をし確認する。また、ホームページや各種たより等で学校の取組や願い等を紹介する。 ②年間6回の授業参観や学校行事への参加を呼びかけ、保護者に生徒の成長を感じてもらえるような授業や学校行事を工夫する。 ③授業参観や研究授業等の案内を学校評議員、町内小学校等へも届ける。
	◎危機管理体制の整備	危機管理能力向上と職員の信用失墜行為の防止	①危機管理マニュアルに基づいて、避難訓練を年間3回以上、警察官による指導講話等を年間1回以上行い、危機管理能力を高めると共に、危機管理体制の整備等を図り、安全指導を充実する。 ②職員へ信用失墜行為の防止について周知徹底を図る。周知度100%、信用失墜行為0とする。	①生徒の危険回避力や危険予知力を高めるような避難訓練や指導講話を実施しつつ、日頃の安全指導を充実させる。 ②通知文等により、服従規律保持に関わる資料や事故の事例等を示しながら周知徹底を図り、職員の危機管理能力を最高レベルにまで引き上げる。
教育活動	○生徒活動	共に高め合う生徒会活動等の促進	①朝の挨拶運動、清掃活動への生徒の参加率を90%以上とする。 ②生徒会活動を中心に、より良い学校生活のために話し合いの場を充実させ、意義のある活動へと繋げる。	①朝の挨拶運動、清掃活動を放送係で呼びかける。 ②専門部会、評議員会の話し合いの時間を確保し、充実したものにする。

③ 元気な挨拶や声かけ、清掃活動等により、生徒との信頼関係を強くし、命の教育、心の教育の充実を図り、人としての望ましい生き方を身につけさせる。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	道徳の時間の充実 思いやりのある言動の育成	①「挨拶、返事、後始末」の指導徹底を図る。 ②適切な資料を活用し、命を大切にすること、思いやりと感謝の心を育てる。 ③「ふれあい道徳の日」を設定し、全学級で授業を公開し、保護者の参加率70%以上を目指す。	①生活指導、学習指導において、「挨拶、返事、後始末」を大切にされた指導を行う。 ②適切な資料による授業や指導を年間計画に位置づける。 ③授業参観や学級だより等により、保護者にも心の教育について啓発する。
	○人権・同和教育	人権意識の高揚	①授業実践や集会活動を充実させ、生徒の人権に対する意識を今以上に高める。 ②人を傷つけたり、嫌な思いをさせたりしない言葉遣い(行動)を全生徒ができるようにする。	①全校朝会、朝の会などで相手の立場に立った行動、人を傷つけたり嫌な思いをさせたりしないことについての講話や指導を行う。 ②掲示物や放送により、人権意識を高める呼びかけをする。
	○生徒指導	“共に”考え、活動できる生徒の育成	①共に自ら明るく挨拶し、熱心に掃除に取り組むことができる生徒を育てる。 ②周りの人と協力・共同ができる生徒を育てる。 ③生活事故0、交通事故0をめざす。 ④月1回の生徒指導協議会を実施し、共通理解・共通実践を図る。	①生徒に対して職員が積極的に挨拶を交わし、しっかり挨拶ができる生徒を褒める。 ②職員も生徒と一緒に掃除に取り組み、頑張っている生徒を褒める。 ③安全・安心な生活については、PTAや地域の方々との協力して、推進していく。 ④生徒指導協議会において、担当学級の気になる生徒についての情報を全職員に正しく伝える。

④ 教科体育や部活動の充実、基本的な生活習慣の励行等によって、将来を生き抜く強い身体と精神力を身につけさせる。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	体力向上と健康の保持増進 感染症予防対策の強化 望ましい食習慣の形成	①新体力テストで全国平均を上回る。 ②全校生徒欠席者数0の日を年間100日以上にする。 ③「うがい」「手洗い」を毎日励行する生徒60%をめざす。 ④「早寝、早起き、しっかり朝ごはん」運動実施率を80%以上にする。	①教科体育、体育的行事、部活動の充実を図る。 ②昼休みに運動場で遊ぶことを積極的に奨励する。 ③年2回のアンケートを実施する。 ④規則正しい生活の中で、特に、「早寝」に取り組みさせる。 ⑤衛生推進者と学級担任の連携により、衛生指導の充実を図る。